



少子化に対応した活力ある学校 ③

教員数が少なくなることによる学校運営上の課題

児童・生徒数の減少により学級数が減るに従い、配置される教職員数も少なくなります。そのため、文部科学省は「手引」の中で、次のような問題が顕在化し、結果として教育活動に大きな制約が生じる恐れがあることに留意することが必要である、と指摘しています。



- ① 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる。
- ② 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④ ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる。
- ⑤ 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥ 学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生ずる。
- ⑦ 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる。
- ⑧ 教員同士が切磋琢磨する環境を作りやすく、指導技術の相互伝達がなされにくい。(学年会や教科部会等が成立しない)
- ⑨ 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- ⑩ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- ⑪ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

泰然

2023年 WBC日本代表チーム監督 栗山英樹

私の考える「泰然」とは、相手に我慢をさせないことです。意思表示の鍵を開けるために、力関係を形にしないように気を付けています。

そのためには「覚悟」と「決意」が必要でしょう。どんな結果になっても全て受け止めて、迷わず次の機会に挑んでいく覚悟をもつ。

相手ができないことは自分の説明が足りなかったからで、他者を責めるよりもまず自分を見つめる決意を胸に秘める。

出典：「栗山ノート」(栗山英樹著 光文社)

※ 「泰然」とは相手に我慢をさせないこと。そのため、覚悟と決意を要する。心に刻みたい言葉です。